

第 1 回新しい村魅力アッププラン検討委員会 におけるご意見と対応

ご意見		対応（案）
■新しい村の抱える課題について		
宿泊機能について	1. 10 年後を見据えた魅力アップと考えた時に、グランピングは流行っているか。お金をかけて施設を整備しても、将来流行っているかは分からない。また、この町の自然環境は、グランピングで行きたくなるだけの環境と言えるか。	・課題のまとめとして資料を整理し、共有を図ることを今回の会の目的としている。宿泊機能に関しては、アンケート調査結果より整理しており、グランピングはあくまで例示として示している。 ・現時点では導入を決定しているものではなく、次回の会議で、具体的な導入機能やその規模感について議論する。
	2. 既存施設を活用し、宿泊できる環境を整えられれば良い。例えば、キャンプはできる環境が既にあるので、大きな追加投資も必要なく、十分応援できる。	
	3. 宿泊施設を整備するのであれば、既存施設を活用し、大きな追加投資をせずに農体験ができる施設を整備するべき。遠方から車でアクセスも可能であり、施設規模を考えても妥当ではないか。大きな施設を追加整備することは、投資に対する資本効果、収益を考えると厳しい。	
	4. 農家の家を借りて、農家の朝の作業を体験する等、農体験を含んだ宿泊も考えられる。宮代町には農家も多く、大きい屋敷も多い。子供が家を出て空き部屋もあると思うので、農家の家を借りて活用することも一つの方法である。宮代町の魅力も伝わり、農家に宿泊した人が、農業に興味を持つきっかけになる。新しい施設を整備するのではなく、今ある環境を活かし、魅力アップにつなげたい。	・宿泊機能としては、ご意見にある農泊などを進め、その窓口機能を新しい村が持つことも考えられる。具体的な内容については、次回以降、引き続き検討する。
既存施設の修繕について	5. 新たに施設を設けるくらいであれば、老朽化している既存施設の修繕等に予算をかけてもらいたい。	・町の税金での整備以外の投資可能性についても検討する。
今ある環境の保全について	6. ほっつけという「歴史」と「里山の環境」が資産と感じており、環境面の視点がおざなりになっているように感じる。環境にも目を向けて守るべきであり、環境の保護に関しても、別枠で方針を立てていただきたい。	・今後リニューアルしていくなかでも、自然の中で過ごす時間を根底の価値として捉え、「宮代の自然と共生するデザイン」において、既存の自然環境を尊重する記載を追加する。
	7. 新しい村の魅力は何か。ほっつけの周りは夜の星がきれいに見える。このような恵まれた環境を活かした魅力アップを考えたい。	
	1. 環境を守ることが共通的な背景として整理できたと話が通るのではないかと。個人的には、自然環境や農業、農家を守りたいと考えているが、新しい村の目標像の共通認識がなければ	

ご意見		対応（案）
	まとまらない。	
有機農業について	8. 国が「みどりの食料システム戦略」において掲げている有機農業の拡大の目標を踏まえて、宮代町でも有機農業を進めていけるとよい。環境に配慮した農業に取り組むことで、新しい村の魅力アップにもつながるのではないかな。	・農家・就農支援に関連して、環境に配慮した農業の視点を追加する。
PR について	9. 検索エンジンで、「直売所 埼玉県」と検索しても、新しい村は検索結果に出てこない。キャッチコピーを付け強調することに加え、インターネットの検索において引っかかりやすくする等、認知度の改善に向けた取組が必要である。	・課題として、ネット検索への対応を追記するとともに、PR 戦略を検討するなかで対応を検討する。
農家・就農支援について	10. 生産者の半数近くが、後継者がいないと考えると、将来新しい村への納品量も大幅に減少する可能性もある。物品が販売できなくなる可能性も考えると、農家・就農支援の「継続」ではなく「強化」にすべきである。	・ご指摘の通り、「継続」というより「強化」が正しい認識と考えるので修正する。
	11. 水田の一部を果樹農園として拡大する等、宮代の果樹栽培も継続していくシステムを検討する必要がある。米も大事ではあるが、その他の生産物も継続していく方法を考えたい。	・稲作だけでなく、果樹等のその他の農産物も含めて、町として継続していくために体験農園の拡張等、新しい村が担える機能・サービスについて検討する。
	12. これから町全体で狭小農地が放棄され・荒れる可能性もある中で、町が出資している法人として、新しい村がまちなかの狭小農地を近隣の人が例えば市民農園等として活用できるよう、仲介の役割を担い、マッチングを行うシステムが必要ではないかな。	・就農希望者だけでなく、市民農園等の趣味的な農体験希望者に対する町内の農地のマッチングについても課題として捉えているが、農業委員会と連携し、町として対応方針を検討する。
指定管理組織の人材育成について	13. 新しい村の整備から 20 年が経過し、ベテランの職員も多く、職員の高齢化も進んでいる中で、将来を担うキャストを育てなければ、現在の職員が退職した際に、現在の運営水準を維持できるか心配である。時間をかけて指定管理組織内部の将来に向けた人材育成も重要である。	・新しい村としても、若手職員の採用等進めており、今後も採用活動や職員が長く働ける環境づくりが必要と認識している状況を踏まえ、課題に追加する。
SDG s への対応について	14. SDG s が国連で採択されており、持続可能性の視点も必要がある。整備から 20 年が経過した現在、魅力アップを図るのであれば環境面でも農業面でもトップを走るべきである、安心安全な食糧を供給するという内容も大切ではないかな。新しい村の事業と関連するものも多くあると思うので、SDG s との対応関係も意識してアピールするべき。	・近年の情勢として、持続可能性の視点は重要であることから、魅力アップ方針等を整理する中で、SDGs の 17 のゴールとの対応関係を示す。

■ 魅力アップ方針（案）について		
宮代の自然と共生するデザインについて	1. 5月の連休のほっつけは野草が敷き詰めたように生えており、きれいな風景を形成しているが、管理のために野草は刈られてしまう。草刈りをするなというわけではないが、自然の良さを見せる工夫があってもよいのではないか。	・里山の農村風景は人間と自然の関わりを通じて形成され、維持されてきたものであり、田んぼや雑木林、水辺、草むらなどが広がる風景を後世に伝えていくべきと認識している。剪定や草刈りの手法については、個別事業の中で対応する。
	2. 職員の新しい村の魅力に対する意識改革が必要。山崎山は管理された里山であるが、職員の樹木の剪定にも問題があると考えている。樹木の管理方法についても基準を決めるべきである。	
コンセプトについて	3. 「本気で農を志す人を応援する」とあるが、新しい村の社員の育成は重要だが、利用者に対してそこまでの支援が必要か。新しい村にこの機能を持たせることは余分な負担になるのではないか。農業支援の程度について議論したい。	・「本気で」という表現としたのは、後継者問題を踏まえ、今後、支援を強化するべきと認識しているからであり、そのために町と新しい村が連携する必要があると考えている。 ・特に、町で行っている就農支援の対象にならない希望者に対して、農業教育や農経営の通年的な体験等のサービスを補強することを想定している。その際、運営に当たっては、新しい村以外の民間事業者との連携可能性についても検討する。
	4. どういった形態になるにしても、新しい村の事業部門を広げる必要があるのではないか。	
方針 1 について	5. 宿泊機能の記載は気になる。知らない人を見ると、何か大きな施設ができるのではないかと誤解される可能性があるので、表現は考えるべきである。	・宿泊施設そのものよりも、滞在型の利用を促進するという考え方が大切だと考えている。具体的なサービスとして、どのように位置付けるかは引き続き検討するが、ご指摘を踏まえて方針としての表現は修正する。
方針 2 について	6. 「デザインコードを設定」とあるが、方針 3 の要素であるように感じる。意図を説明してほしい。	・自然環境の中で滞在する上で、施設やサインのデザインを統一することで、空間の質を高め、快適な利用を促進することを意図している。
	7. 生産者、販売者の立場から、魅力ある直売所の構築や利用しやすい売り場の整備など、現場に関する記載もしてほしい。老朽化する施設・設備の更新に含まれるかもしれないが、文字として方針に明記してほしい。	・ご指摘を踏まえて、方針を具体化するなかで、直売所の売り場等に関する記載も追加する。
	8. 新しい村が整備されてから、約 20 年が経過したが、周辺設備に関して改修や修繕が行き届いてない部分がある。デザインも大切であるが、施設・設備を長持ちさせる、もしくは修繕しやすくする工夫も必要である。	・魅力アッププランを整理する中で、各施設の整備時期や修繕時期等を整理する予定である。また、更新時期や施設の長寿命化、改修しやすい構造等への転換についても、財政部局と調整しながら、予防保全的な修繕・更新等の方針をも計画の中に位置付ける。
方針 3 について	9. 曜日によって来訪者も異なるので、平日と休日で異なる地域や年齢層などを考えた PR の工夫が必要である。 また、関東圏における認知度だけでなく、宮代町の住民でも知らない人はいると考えられる。そのため、PR を考える際にはターゲットの整理が必要である。	・ご指摘を踏まえて、曜日により来訪者の属性が異なることを踏まえた、ターゲット設定による PR 戦略の展開について追記する。